広島県西部厚生環境事務所
西部保健所 収受
第　　号
-7.3.25
処理期限　月　日
分類記号　保存年限

事前評価に関する書面

令和７年３月24日

代表者 住所：東京都港区元赤坂1-3-1
名称：鹿島建設株式会社
代表者氏名：代表取締役社長　天野　裕正
申請人 住所：広島県呉市天応大浜３丁目5-4
名称：鹿島建設株式会社 小屋浦トンネル工事事務所
代理人氏名：所長　神田　耕治

1	工場又は事業場の名称及び所在地	広島呉道路　小屋浦トンネル工事 広島県安芸郡坂町４丁目地内	
2	許可申請の概要	別紙１のとおり	
3	工場又は事業場の排水口の位置及び数 （施行規則第４条第１項第１号）	排水口の位置	別図１のとおり
		排水口の数	２か所
4	排水口周辺の公共用水域について定められている水質汚濁に係る環境基準その他水質汚濁に係る環境保全上の目標に関する事項 （同第２号）	別紙２のとおり	
5	各排水口における排出水の汚染状態の通常の値及び最大の値並びに当該排出水の１日当たりの通常の量及び最大の量 （同第４号）	別紙３のとおり	
6	周辺公共用水域の水質の現況その他当該水域の現況に関する事項（同第３号）	別紙４，別紙５，別図２のとおり	
	排出水の排出に伴い予測される周辺公共用水域の水質の変化の程度及び範囲並びにその予測の方法 （同第５号）		
7	その他当該特定施設の設置又は構造等の変更が環境に及ぼす影響についての事前評価に関して参考となるべき事項 （同第６号）	別紙６のとおり	

別図２として，周辺公共用水域の範囲，測定点の場所が分かる図面を添付し，周辺公共用水域の決定の根拠も記載すること。

別紙1

許可申請書の概要

（1）特定施設設置(変更)の理由及び内容

呉市および安芸郡坂町において，広島県道路天応トンネル掘削工事が予定されている。
この工事に伴い，生コンクリートを製造するため，場内に特定施設であるバッチャープラントを設置する計画である。当トンネル掘削工事完了は令和８年５月を予定している。

特定施設名: 55 生コンクリート製造業の用に供するバッチャープラント 1基(新設)
型式　　　: MR-500B　2槽建屋式
主要製品名: 生コンクリート
能力　　　: 混練能力　25m^3/時
使用時間　: 約2時間/日

（2）排水処理施設の設置，変更等の内容

処理施設名: 濁水処理設備　1基（新設）
処理の方式: 炭酸ガスによる中和および凝集沈殿方式
能力　　　: 30m^3/時
使用時間　: 24時間/日

（3）排水口における排出水の汚染状態及び量が減少する場合はその理由
（変更がない場合も含む。）

該当なし

別紙２

排水口周辺の公共用水域について定められている水質汚濁に係る環境基準
その他水質汚濁に係る環境保全上の目標に関する事項

（１）人の健康の保護に関する環境基準

項目	基準値	項目	基準値
カドミウム	0.003 mg/Ｌ以下	1，1，2-トリクロロエタン	0.006 mg/Ｌ以下
全シアン	検出されないこと。	トリクロロエチレン	0.01 mg/Ｌ以下
鉛	0.01 mg/Ｌ以下	テトラクロロエチレン	0.01 mg/Ｌ以下
六価クロム	0.02 mg/Ｌ以下	1，3-ジクロロプロペン	0.002 mg/Ｌ以下
砒素	0.01 mg/Ｌ以下	チウラム	0.006 mg/Ｌ以下
総水銀	0.0005 mg/Ｌ以下	シマジン	0.003 mg/Ｌ以下
アルキル水銀	検出されないこと。	チオベンカルブ	0.02 mg/Ｌ以下
ＰＣＢ	検出されないこと。	ベンゼン	0.01 mg/Ｌ以下
ジクロロメタン	0.02 mg/Ｌ以下	セレン	0.01 mg/Ｌ以下
四塩化炭素	0.002 mg/Ｌ以下	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	10 mg/Ｌ以下
1，2-ジクロロエタン	0.004 mg/Ｌ以下	ふっ素（海域除く）	0.8 mg/Ｌ以下
1，1-ジクロロエチレン	0.1 mg/Ｌ以下	ほう素（海域除く）	1 mg/Ｌ以下
シス-1，2-ジクロロエチレン	0.04 mg/Ｌ以下	１，４－ジオキサン	0.05 mg/Ｌ以下
1，1，1-トリクロロエタン	1 mg/Ｌ以下		

（２）生活環境の保全に関する環境基準

排出先の河川の水域名，海域名		広島湾
類型		Ａ・Ⅱ
基準値	水素イオン濃度（ｐＨ）　（水素指数）	7.8～8.3
	生物化学的酸素要求量（ＢＯＤ）　(mg/L)	―
	化学的酸素要求量（ＣＯＤ）　(mg/L)	2 mg/L 以下
	浮遊物質量（ＳＳ）　(mg/L)	―
	溶存酸素量（ＤＯ）　(mg/L)	7.5 mg/L 以上
	大腸菌数　(CFU/100mＬ)	20 CFU/100mL 以下
	n-ヘキサン抽出物質（油分等）　(mg/L)	検出されないこと
	全窒素　(mg/L)	0.3 mg/L 以下
	全燐　(mg/L)	0.03 mg/L 以下
	全亜鉛　(mg/L)	―

排出先の類型が２以上となる場合は，欄を追加すること。

（３）その他の水質汚濁に係る環境保全上の目標

ア　ダイオキシン類対策特別措置法に基づく環境基準

媒　体	基準値
ダイオキシン類（水底の底質を除く。）	１ｐｇ－ＴＥＱ/Ｌ以下

イ　その他

別紙３

各排水口における排出水の汚染状態の通常の値及び最大の値
並びに当該排出水の１日当たりの通常の量及び最大の量

排　水　口　名		排水口①		雨水排水口				総合円中心排水口	
項目＼区分		通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大
排出水量（m^3／日）		234	518	0	0				
排出水の汚染状態	ｐＨ（水素指数）	5.8～8.6	5.8～8.6						
	ＢＯＤ（mg／L）	1	2						
	ＣＯＤ（mg／L）	5	10						
	ＳＳ　（mg／L）	50	65						
	全窒素（mg／L）	2	5						
	全燐　（mg／L）	0.1	0.5						
	大腸菌数（CFU/mL）	2	100						
ＣＯＤ負荷量（kg/日）		2.6						—	
窒素負荷量（kg/日）		1.0						—	
燐負荷量（kg/日）		0.05						—	

負荷量は排水口ごとに
通常の汚染状態（mg/Ｌ）×最大排水量（m^3/日）×10^{-3}で計算する。

別紙４－１　周辺公共用水域の水質の現況その他当該水域の現況に関する事項及び排出水の排出に伴い予測される周辺公共用水域の水質の変化の程度（河川）

採水機関名	（一財）広島県環境保健協会	分析機関名	（一財）広島県環境保健協会

採水点名	河川 No. 1 排水口直上流			低水流量（m³/日）				57.6	
				希釈率（最大排水量/低水流量）				－	
採水年月日及び時刻 ＼ 項目		水温 (℃)	pH (水素指数)	BOD (mg/L)	COD (mg/L)	ＳＳ (mg/L)	全窒素 (mg/L)	全燐 (mg/L)	大腸菌数 (CFU/100mL)	
水質の現況	第１回 令和７年２月 19 日 10 時 25 分	8.2	7.7	0.3	1.5	1 未満	0.59	0.011	97	
	第２回 令和７年２月 19 日 12 時 45 分	10.4	8.4	0.3	2.1	1 未満	0.58	0.016	63	
	第３回 令和７年２月 19 日 15 時 15 分	8.0	7.9	0.2	1.6	1 未満	0.61	0.014	85	
平　均		8.9	8.0	0.3	1.7	1 未満	0.59	0.014	82	
将　来　水　質		－	－	－	－	－	－	－	－	

採水点名	河川 No. 2 排水口直下流			低水流量（m³/日）				57.6	
				希釈率（最大排水量/低水流量）				9.0	
採水年月日及び時刻 ＼ 項目		水温 (℃)	pH (水素指数)	BOD (mg/L)	COD (mg/L)	ＳＳ (mg/L)	全窒素 (mg/L)	全燐 (mg/L)	大腸菌数 (CFU/100mL)	
水質の現況	第１回 令和７年２月 19 日 10 時 05 分	5.8	8.1	0.3	1.4	1 未満	0.51	0.005	92	
	第２回 令和７年２月 19 日 12 時 20 分	8.9	9.1	0.5	2.1	1 未満	0.46	0.013	63	
	第３回 令和７年２月 19 日 14 時 55 分	8.8	9.1	0.5	2.0	1	0.46	0.013	59	
平　均		7.8	8.8	0.4	1.8	1 未満	0.48	0.010	71	
将　来　水　質		－	－	0.9	4.7	45	1.8	0.091	－	

採水点名	河川 No. 3 天地川合流後			低水流量（m³/日）				138.2	
				希釈率（最大排水量/低水流量）				3.7	
採水年月日及び時刻 ＼ 項目		水温 (℃)	pH (水素指数)	BOD (mg/L)	COD (mg/L)	ＳＳ (mg/L)	全窒素 (mg/L)	全燐 (mg/L)	大腸菌数 (CFU/100mL)	
水質の現況	第１回 令和７年２月 19 日 9 時 40 分	3.5	8.1	0.5	1.8	1 未満	0.61	0.008	35	
	第２回 令和７年２月 19 日 12 時 10 分	9.9	9.0	0.4	1.9	1 未満	0.46	0.009	230	
	第３回 令和７年２月 19 日 14 時 40 分	13.4	9.3	0.6	2.2	2	0.41	0.011	140	
平　均		8.9	8.8	0.5	2.0	1 未満	0.49	0.009	135	
将　来　水　質		－	－	0.9	4.4	40	1.7	0.081	－	

別紙４－２　周辺公共用水域の水質の現況水質その他当該水域の現況に関する事項（河川，環境基準点等）

採水機関名		分析機関名	
採水点名	※放流先となる大判川・天地川に測定地点なし		

年　　月　から　　年　　月までの過去１か年間における平均水質											
項目／区分	ｐＨ (水素指数)	BOD (mg/L)	COD (mg/L)	ＳＳ (mg/L)	全窒素 (mg/L)	全燐 (mg/L)					
水質の現況											

別紙４－３　周辺公共用水域の水質の現況その他当該水域の現況に関する事項及び排出水の排出に伴い予測される周辺公共用水域の水質の変化の程度（海域）

採水機関名	(一財)広島県環境保健協会	分析機関名	(一財)広島県環境保健協会

測定点名	海域 No.1		希釈率（C）	0.0047							
採水年月日及び時刻	項目 区分		水温 (℃)	pH (水素指数)	BOD (mg/L)	COD (mg/L)	SS (mg/L)	全窒素 (mg/L)	全燐 (mg/L)	大腸菌数 (CFU/100mL)	
第１回 令和７年２月19日 9時40分 干満の別：満ち潮	水質の現況	表層	10.2	8.0	－	1.5	1未満	0.14	0.021	1未満	
		中層	10.0	8.0	－	1.6	1未満	0.14	0.020	1未満	
		平均	10.1	8.0	－	1.6	1未満	0.14	0.021	1未満	
第２回 令和７年２月19日 12時10分 干満の別：満ち潮		表層	10.4	8.0	－	1.6	1未満	0.14	0.020	1未満	
		中層	10.2	8.0	－	1.6	1未満	0.14	0.020	1未満	
		平均	10.3	8.0	－	1.6	1未満	0.14	0.020	1未満	
第３回 令和７年２月19日 14時40分 干満の別：引き潮		表層	10.4	8.0	－	1.4	1未満	0.14	0.020	1未満	
		中層	10.1	8.0	－	1.5	1未満	0.15	0.020	1未満	
		平均	10.3	8.0	－	1.5	1未満	0.15	0.020	1未満	
総　平　均			10.2	8.0	－	1.6	1未満	0.14	0.020	1未満	
将　来　水　質			－	－	－	1.5	1	0.15	0.020	－	

測定点名	海域 No.2		希釈率（C）	0.0012							
採水年月日及び時刻	項目 区分		水温 (℃)	pH (水素指数)	BOD (mg/L)	COD (mg/L)	SS (mg/L)	全窒素 (mg/L)	全燐 (mg/L)	大腸菌数 (CFU/100mL)	
第１回 令和７年２月19日 9時50分 干満の別：満ち潮	水質の現況	表層	10.2	8.0	－	1.4	1未満	0.13	0.021	1未満	
		中層	10.1	8.0	－	1.4	1未満	0.13	0.021	1未満	
		平均	10.2	8.0	－	1.4	1未満	0.13	0.021	1未満	
第２回 令和７年２月19日 12時20分 干満の別：満ち潮		表層	10.3	8.0	－	1.4	1未満	0.14	0.019	1未満	
		中層	10.0	8.0	－	1.4	1未満	0.14	0.018	1未満	
		平均	10.2	8.0	－	1.4	1未満	0.14	0.019	1未満	
第３回 令和７年２月19日 14時50分 干満の別：引き潮		表層	10.3	8.0	－	1.6	1未満	0.14	0.019	1未満	
		中層	10.2	8.0	－	1.6	1未満	0.14	0.020	1未満	
		平均	10.3	8.0	－	1.6	1未満	0.14	0.020	1未満	
総　平　均			10.2	8.0	－	1.5	1未満	0.14	0.020	1未満	
将　来　水　質			－	－	－	1.5	1	0.14	0.020	－	

測定点名	海域No.3		希釈率（C）		0.0000						
採水年月日及び時刻	項目 区分		水温 (℃)	pH (水素指数)	BOD (mg/L)	COD (mg/L)	SS (mg/L)	全窒素 (mg/L)	全燐 (mg/L)	大腸菌数 (CFU/100mL)	
第1回 令和7年2月19日 10時00分 干満の別：満ち潮	水質の現況	表層	10.1	8.0	―	1.5	1未満	0.13	0.020	1未満	
		中層	10.1	8.0	―	1.4	1未満	0.13	0.020	1未満	
		平均	10.1	8.0	―	1.5	1未満	0.13	0.020	1未満	
第2回 令和7年2月19日 12時30分 干満の別：満ち潮		表層	10.3	8.0	―	1.5	1未満	0.13	0.018	1未満	
		中層	10.1	8.0	―	1.5	1未満	0.14	0.020	1未満	
		平均	10.2	8.0	―	1.5	1未満	0.14	0.019	1未満	
第3回 令和7年2月19日 15時00分 干満の別：引き潮		表層	10.4	8.0	―	1.6	1未満	0.14	0.022	1未満	
		中層	9.9	8.0	―	1.6	1未満	0.14	0.020	1未満	
		平均	10.2	8.0	―	1.6	1未満	0.14	0.021	1未満	
総平均			10.2	8.0	―	1.5	1未満	0.14	0.020	1未満	
将来水質			―	―	―	1.5	1	0.14	0.020	―	

別紙４－４　周辺公共用水域の水質の現況水質その他当該水域の現況に関する事項（海域，環境基準点等）

採水機関名	都市環境整備株式会社			分析機関名	都市環境整備株式会社				
測定点名	広島湾６								
令和５年４月から令和６年３月までの過去１か年間における平均水質 なお，ｐＨについては最小値～最大値である。									
区分＼項目		ｐＨ (水素指数)	BOD (mg/L)	COD (mg/L)	ＳＳ (mg/L)	DO (mg/L)	大腸菌数 (CFU/100mL)	nｰﾍｷｻﾝ抽出物質 (mg/L)	全窒素 (mg/L)	全燐 (mg/L)
現況の水質	表層	7.9～8.8	－	2.9	3	9.0	17	<0.5	0.36	0.033
	中層	7.9～8.5	－	2.5	3	8.3	4	－	－	－
	下層	7.8～8.3	－	1.7	2	7.6	2	－	－	－
	平均	7.8～8.8	－	2.3	3	8.3	8	<0.5	0.36	0.033

採水機関名	株式会社日本総合科学			分析機関名	株式会社日本総合科学				
測定点名	呉地先１								
令和５年４月から令和６年３月までの過去１か年間における平均水質 なお，ｐＨについては最小値～最大値である。									
区分＼項目		ｐＨ (水素指数)	BOD (mg/L)	COD (mg/L)	ＳＳ (mg/L)	DO (mg/L)	大腸菌数 (CFU/100mL)	nｰﾍｷｻﾝ抽出物質 (mg/L)	全窒素 (mg/L)	全燐 (mg/L)
現況の水質	表層	8.0～8.3	－	2.1	2	8.3	7	<0.5	0.12	0.021
	中層	8.0～8.2	－	1.8	2	8.3	－	－	－	－
	下層	7.9～8.1	－	1.6	2	7.5	－	－	－	－
	平均	7.9～8.3	－	1.8	2	8.0	7	<0.5	0.12	0.021

［出典：令和５年度水質等調査の結果　（2023 年度公共用水域水質測定結果）］

別紙５

排出水の排出に伴い予測される周辺公共用水域の水質の変化の範囲
並びに将来水質の予測（河川）

１　予測の方法

次の式により将来の水質を予測する。

$$S' = \{S \cdot Q + (S_0 Q_0 - S'_0 Q'_0)\} / \{Q + (Q_0 - Q'_0)\}$$

- S'　:測定点付近で排出水と河川水が十分に混合したと仮定したときの将来水質（mg/Ｌ）
- S　：測定点付近の現況水質（低水量時）（mg/Ｌ）
- Q　：測定点付近の河川の流量（低水量時）（m^3/日）
- S_0　：新規に増大する排出水を含む当該特定事業場からの全排出水の水質の平均値（mg/Ｌ）
- Q_0　：新規に増大する排出水を含む当該特定事業場からの全排出量（m^3/日）
- S'_0：現状での当該特定事業場からの全排出水の水質の平均値（mg/Ｌ）
- Q'_0：現状での当該特定事業場からの全排水量（m^3/日）

［予測地点の設定］

河川の予測地点は，排水口より下流の地点とした。（別図２参照）

２　水質の変化

【地点名：No.１排水口直上流】

Ｓ’（ＢＯＤ）＝｛　0.3×57.6＋（0×0－0×0）｝/｛57.6＋（0－0）｝＝　0.3 mg/L
Ｓ’（ＣＯＤ）＝｛　1.7×57.6＋（0×0－0×0）｝/｛57.6＋（0－0）｝＝　1.7 mg/L
Ｓ’（ＳＳ）　＝｛　　1×57.6＋（0×0－0×0）｝/｛57.6＋（0－0）｝＝　　1 mg/L
Ｓ’（Ｔ－Ｎ）＝｛0.59×57.6＋（0×0－0×0）｝/｛57.6＋（0－0）｝＝0.59 mg/L
Ｓ’（Ｔ－Ｐ）＝｛0.014×57.6＋（0×0－0×0）｝/｛57.6＋（0－0）｝＝0.014 mg/L

【地点名：No.２排水口直下流】

Ｓ’（ＢＯＤ）＝｛　0.4×57.6＋（　1×518－0×0）｝/｛57.6＋（518－0）｝＝　0.9 mg/L
Ｓ’（ＣＯＤ）＝｛　1.8×57.6＋（　5×518－0×0）｝/｛57.6＋（518－0）｝＝　4.7 mg/L
Ｓ’（ＳＳ）　＝｛　　1×57.6＋（50×518－0×0）｝/｛57.6＋（518－0）｝＝　45 mg/L
Ｓ’（Ｔ－Ｎ）＝｛0.48×57.6＋（　2×518－0×0）｝/｛57.6＋（518－0）｝＝　1.8 mg/L
Ｓ’（Ｔ－Ｐ）＝｛0.010×57.6＋（0.1×518－0×0）｝/｛57.6＋（518－0）｝＝0.091 mg/L

【地点名：No.３天地川合流後】

Ｓ’（ＢＯＤ）＝｛　0.5×138.2＋（　1×518－0×0）｝/｛138.2＋（518－0）｝＝　0.9 mg/L
Ｓ’（ＣＯＤ）＝｛　2.0×138.2＋（　5×518－0×0）｝/｛138.2＋（518－0）｝＝　4.4 mg/L
Ｓ’（ＳＳ）　＝｛　　1×138.2＋（50×518－0×0）｝/｛138.2＋（518－0）｝＝　40 mg/L
Ｓ’（Ｔ－Ｎ）＝｛0.49×138.2＋（　2×518－0×0）｝/｛138.2＋（518－0）｝＝　1.7 mg/L
Ｓ’（Ｔ－Ｐ）＝｛0.009×138.2＋（0.1×518－0×0）｝/｛138.2＋（518－0）｝＝0.081 mg/L

別紙５

排出水の排出に伴い予測される周辺公共用水域の水質の変化の範囲
並びに将来水質の予測（海域）

１　影響の範囲

新田式（$\log(r^2\theta／2)＝1.226\log Q＋0.086$）から求めた周辺公共用水域の外縁までの距離

r　＝ 40.6 　m

θ　＝ 180 　ｒａｄ（拡散角度）

Q　＝ 518 　m^3/日（最大排出水量）

［周辺公共用水域の範囲及びその決定の根拠］

事業場からの排水量は，１日当たり最大で 518m^3 であり，周辺公共用水域の影響範囲を求めるとｒ＝40.6ｍとなる。（別図２参照）

２　予測の手法

ヨーゼフ・ゼンドナー式　（$C＝1－\exp\{－Q_0／\theta dp（1／x－1／\ell）\}$）　から求めた希釈率は次のとおり。

Ｃ　＝　0.0047　（ｒ／３の地点）
Ｃ　＝　0.0012　（２ｒ／３の地点）
Ｃ　＝　0.0000　（ｒの地点）

Q_0　＝ 518 　m^3／日（周辺公共用水域の範囲の決定に用いた排出水量）
θ　＝ 180 　ｒａｄ　（拡散角度）
ｄ　＝ 2 　ｍ　（排出水の混合層厚。原則として２ｍ）
ｐ　＝ 864 　ｍ／日　（拡散速度。原則として８６４ｍ／日）
ｘ　＝ r/3=13.5m　2r/3=27.1m　r=40.6m （排水口（河口）から測定点までの距離）
ℓ　＝ 40.6 　ｍ　（排水口（河口）から周辺公共用水域外縁までの距離）

$S'＝S_1＋（S_0－S_1）\cdot C$ から将来水質を予測する。

S'：測定点付近の将来水質
S_1：周辺公共用水域の外縁直近の外側の測定点の現況水質（mg/Ｌ）
S_0：周辺公共用水域の範囲の決定に用いた排出水の水質の平均値（mg/Ｌ）
ただし一体とみなされる場合には，各排水口における平均値の加重平均値とする。

3　予測

（1） r／3地点の予測値

【地点名：海域 No.1】

S’（COD）＝　1.5＋（　5－　1.5）×0.0047 ＝　1.5 mg/L

S’（SS）　＝　　1＋（ 50－　　1）×0.0047 ＝　　1 mg/L

S’（T－N）＝　0.14＋（　2－ 0.14）×0.0047 ＝ 0.15 mg/L

S’（T－P）＝ 0.020＋（0.1－0.020）×0.0047 ＝ 0.020 mg/L

（2） 2r／3地点の予測値

【地点名：海域 No.2】

S’（COD）＝　1.5＋（　5－　1.5）×0.0012 ＝　1.5 mg/L

S’（SS）　＝　　1＋（ 50－　　1）×0.0012 ＝　　1 mg/L

S’（T－N）＝　0.14＋（　2－ 0.14）×0.0012 ＝ 0.14 mg/L

S’（T－P）＝ 0.020＋（0.1－0.020）×0.0012 ＝ 0.020 mg/L

（3） r地点の予測値

【地点名：海域 No.3】

S’（COD）＝　1.5＋（　5－　1.5）×0.0000 ＝　1.5 mg/L

S’（SS）　＝　　1＋（ 50－　　1）×0.0000 ＝　　1 mg/L

S’（T－N）＝　0.14＋（　2－ 0.14）×0.0000 ＝ 0.14 mg/L

S’（T－P）＝ 0.020＋（0.1－0.020）×0.0000 ＝ 0.020 mg/L

別紙6

当該特定施設の設置に伴う影響評価

1　河川

河川における水質の現況及び将来水質の予測結果は表1のとおりである。

現況水質と将来水質を比較すると，全ての項目において将来水質が現況水質を大きく上回っている。原因としては，事業場からの排出最大水量518m^3/日に対し，現況の河川流量が57.6～132.8　m^3/日程度しかなく希釈されないことによるものである。下流では水道水・内水面漁業・農業用水等の水利用はなく，排水による影響はない。

表1　河川における水質の現況及び将来水質の予測結果

地点	区分	BOD (mg/L)	COD (mg/L)	SS (mg/L)	全窒素 (mg/L)	全燐 (mg/L)
河川No.1 排水口直上流	現況水質（総平均）	0.3	1.7	1未満	0.59	0.014
	将来水質	—	—	—	—	—
河川No.2 排水口直下流	現況水質（総平均）	0.4	1.8	1未満	0.48	0.010
	将来水質	0.9	4.7	45	1.8	0.091
河川No.3 天地川合流後	現況水質（総平均）	0.5	2.0	1未満	0.49	0.009
	将来水質	0.9	4.4	40	1.7	0.081

2　海域

海域における水質の現況及び将来水質の予測結果は表2のとおりである。

現況水質と将来水質を比較すると，海域 No.1 の全窒素が現況 0.14mg/L に対し将来 0.15 mg/L とわずかに高くなっているが，その他の項目，地点については，将来水質は現況と同程度の値となっている。

環境基準と比較すると，すべての項目，地点について，環境基準に適合している。

以上のとおり，将来水質は現況水質と同程度の値になると予測され，環境基準（A・Ⅱ類型）を下回っていることから，当該事業場からの排出水による周辺環境への影響は軽微であると評価される。

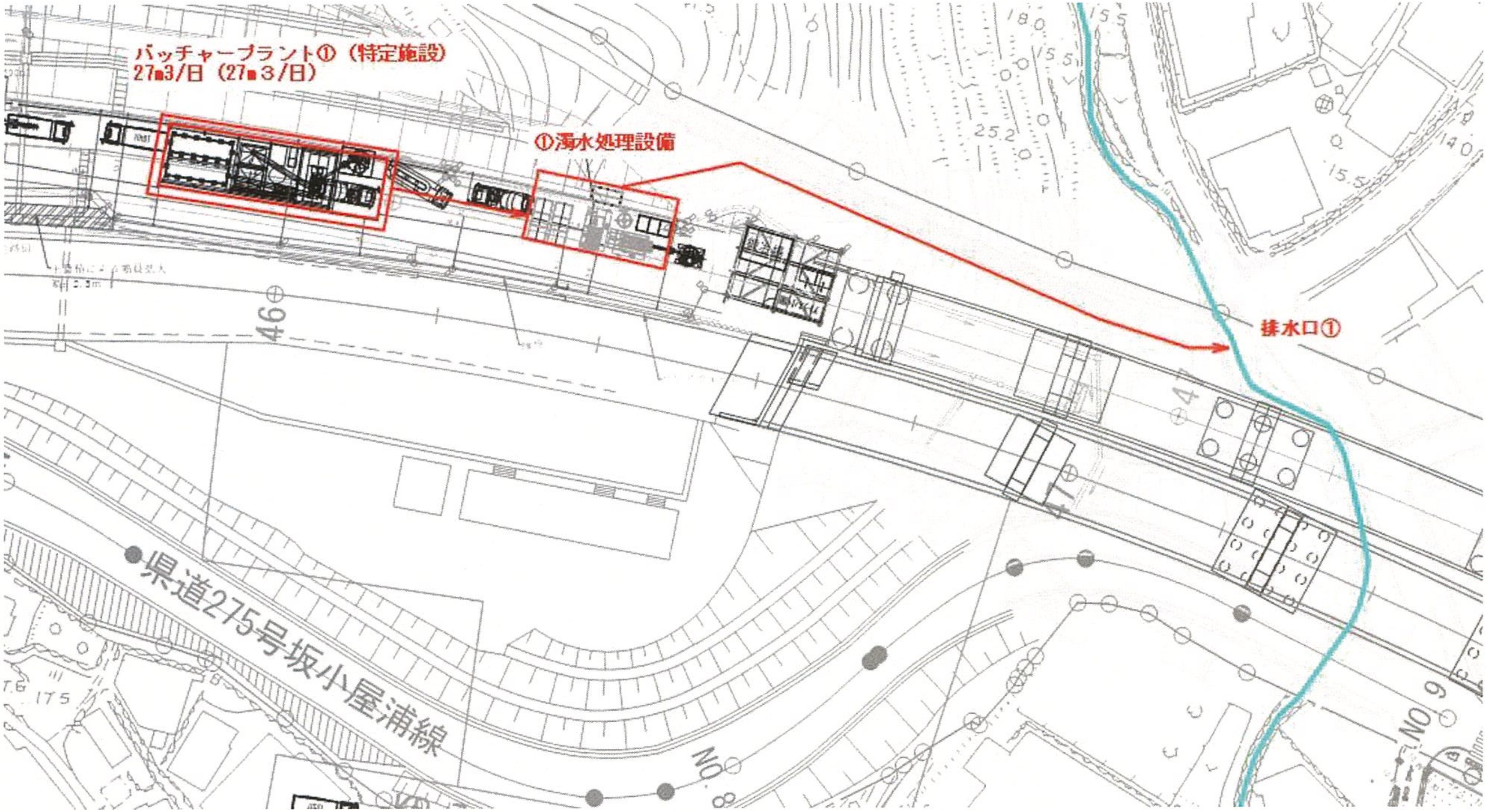
表2　海域における水質の現況及び将来水質の予測結果

地点	区分	BOD (mg/L)	COD (mg/L)	SS (mg/L)	全窒素 (mg/L)	全燐 (mg/L)
海域No.1 (1/3r)	現況水質（総平均）	—	1.6	1未満	0.14	0.020
	将来水質	—	1.5	1	0.15	0.020
海域No.2 (2/3r)	現況水質（総平均）	—	1.5	1未満	0.14	0.020
	将来水質	—	1.5	1	0.14	0.020
海域No.3 (r)	現況水質（総平均）	—	1.5	1未満	0.14	0.020
	将来水質	—	1.5	1	0.14	0.020
環境基準（A・Ⅱ）		—	2以下	—	0.3以下	0.03以下

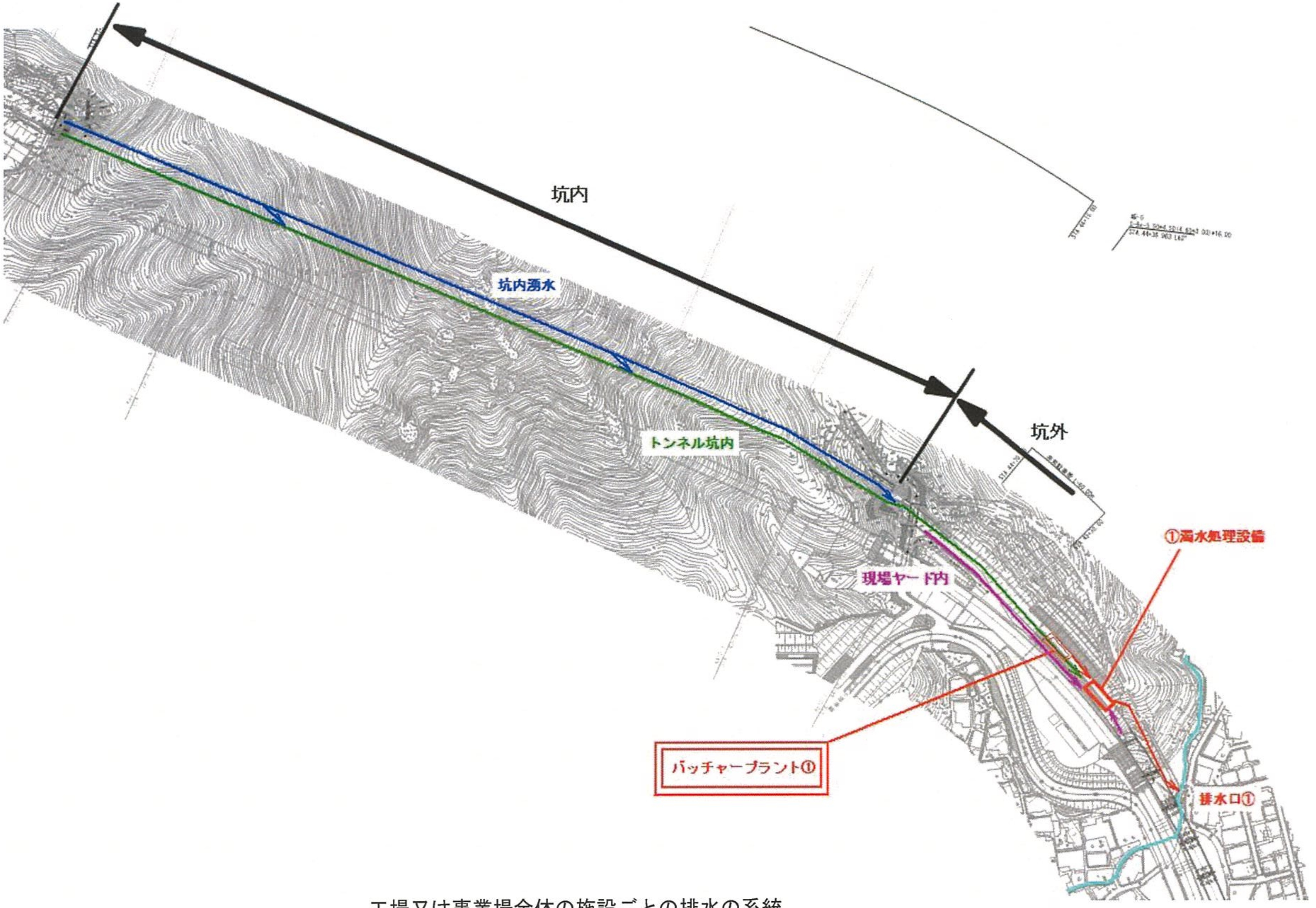
別図１

【排水口の位置図】

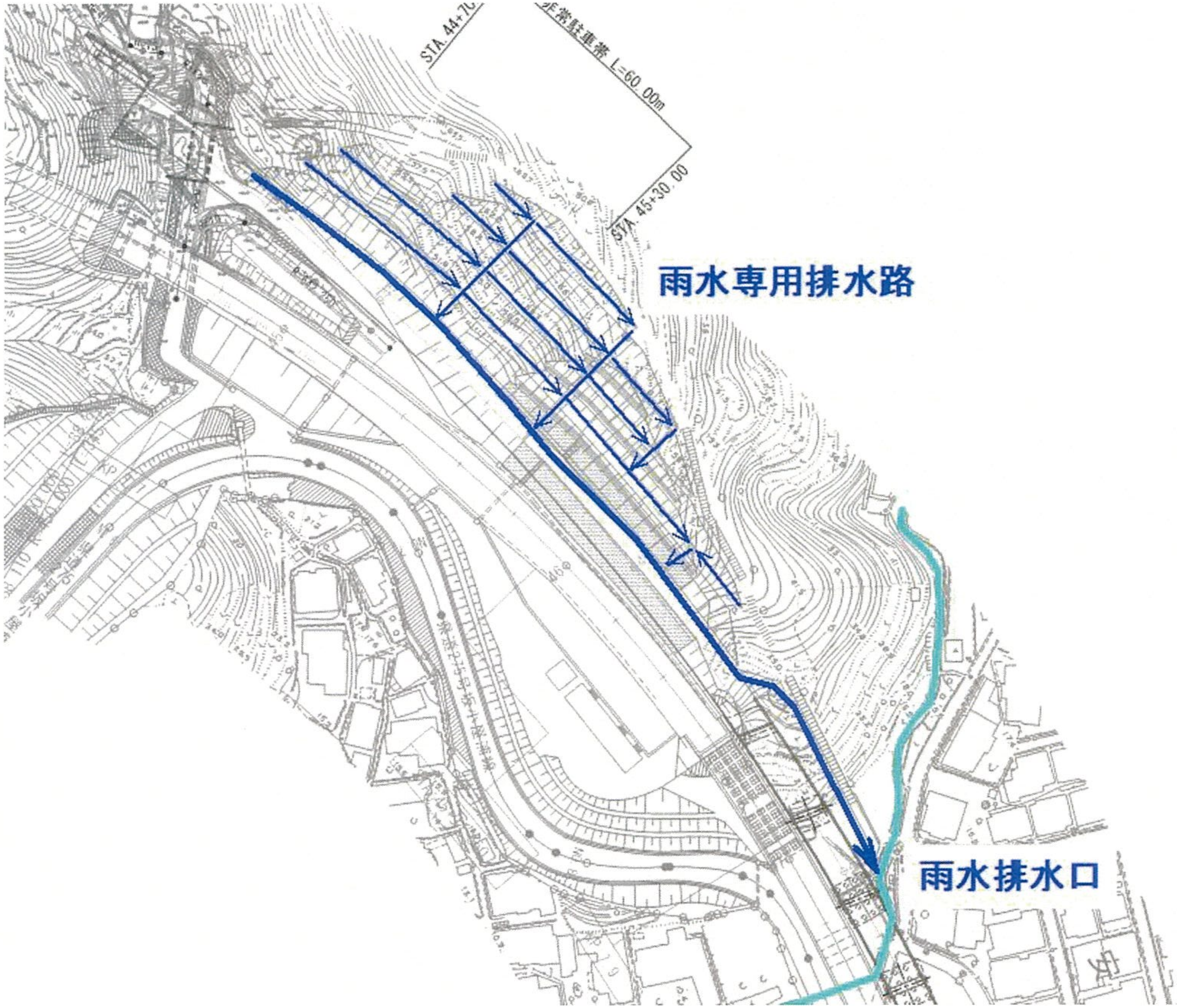
緯度: 34.30309860
経度: 132.50760650
縮尺: 1/2500
雨水排水口
排水口①
バッチャープラント①（特定施設）
27㎥/日（27㎥/日）
①濁水処理設備
大判川
天地川
小屋浦2
小屋浦3
小屋浦駅
85m
©2025 ZENRIN DataCom
地図データ©2025 ZENRIN
地図複製許諾証
鹿島建設株式会社
許諾番号：Z24LF第075号
株式会社ゼンリン
ZENRIN



工場又は事業場全体の施設ごとの排水の系統



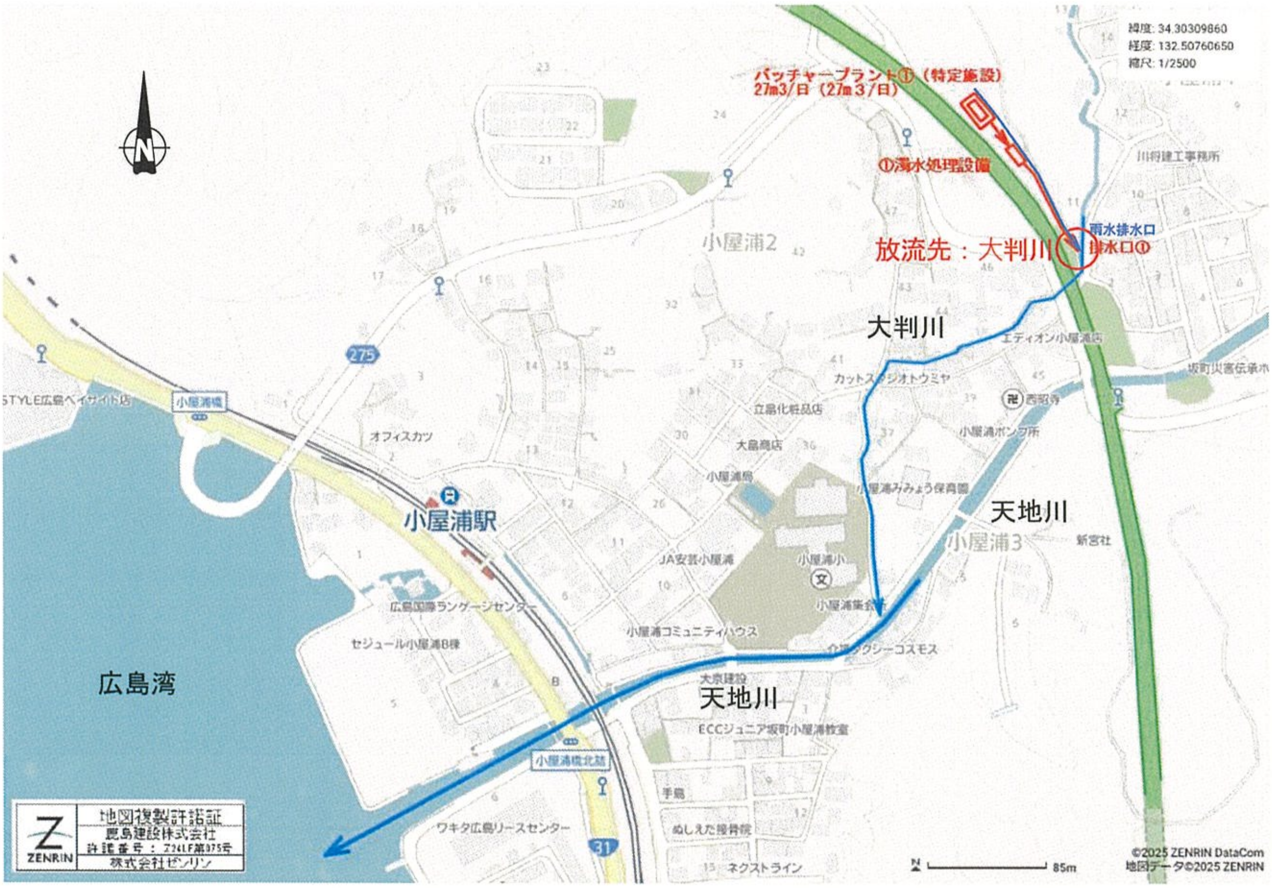
工場又は事業場全体の施設ごとの排水の系統

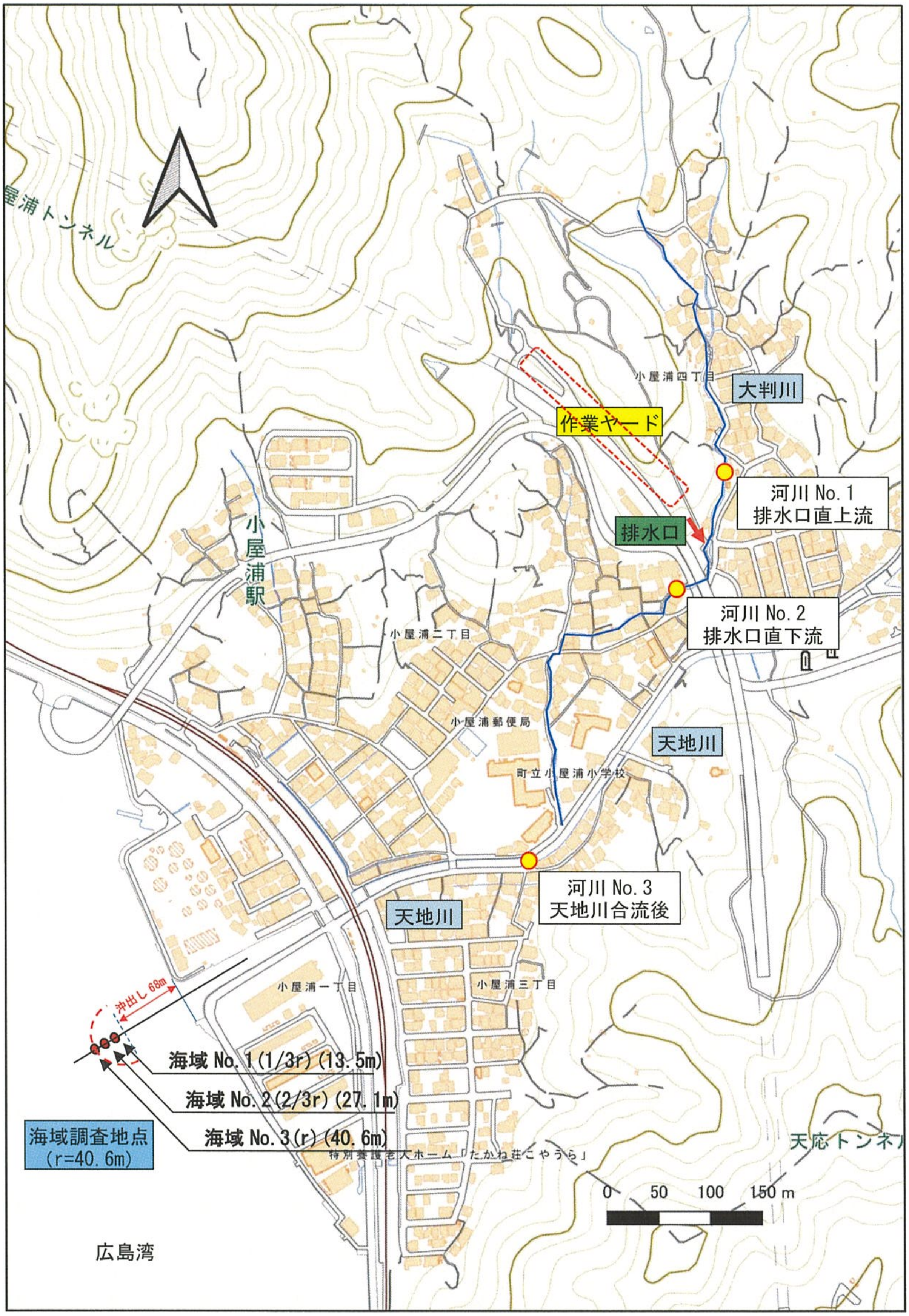


雨水専用排水系統

別図２

【周辺公共用水域の範囲】



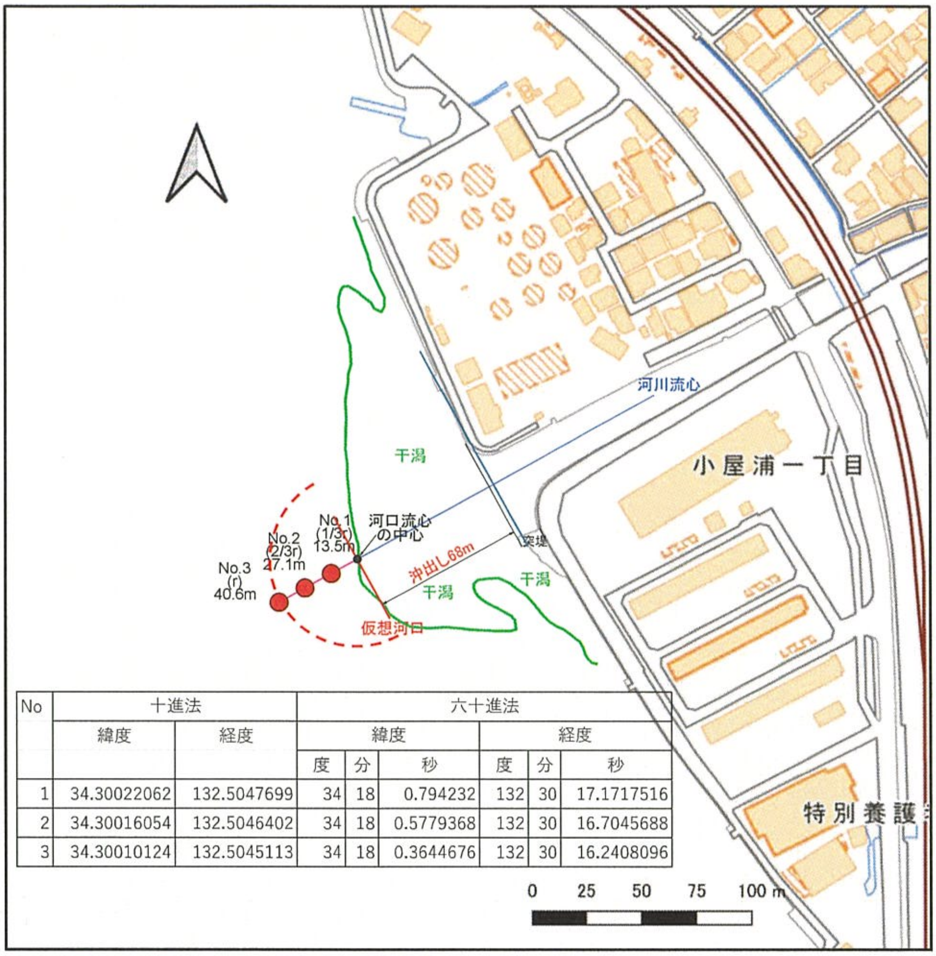


【周辺公共用水域の範囲及びその決定の根拠】

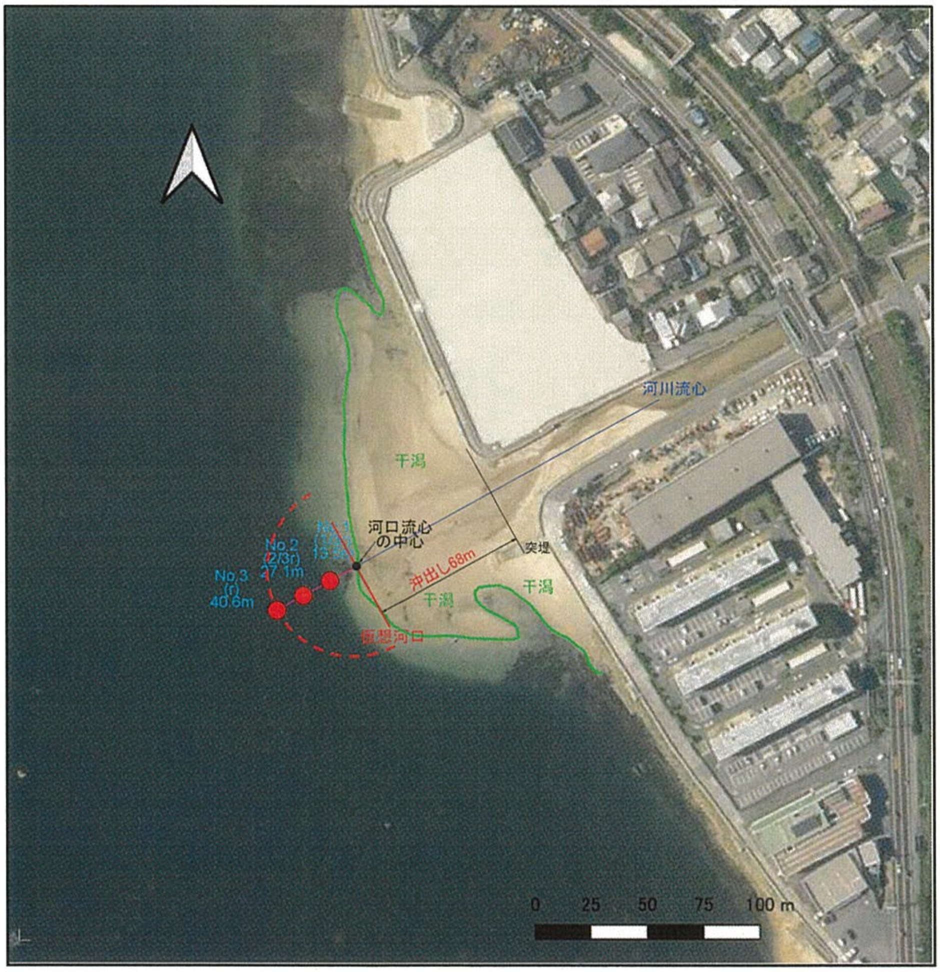
事業場からの排水量は、1日当たり最大で518m^{3}であり、周辺公共用水域の影響範囲を求めると r=40.6mとなる。

- - - - - - - : 周辺公共用水域の範囲

調査地点図



No	十進法		六十進法					
	緯度	経度	緯度			経度		
			度	分	秒	度	分	秒
1	34.30022062	132.5047699	34	18	0.794232	132	30	17.1717516
2	34.30016054	132.5046402	34	18	0.5779368	132	30	16.7045688
3	34.30010124	132.5045113	34	18	0.3644676	132	30	16.2408096



[国土地理院　2023/6/19 撮影]

調査地点図（海域）